# 体験博物館 千葉県立房総のむら館報

「房総のむら」は、参加体験型の博物館です。原始・古代から近・現代までの衣・食・住・技の移り変わりを、当時の環境の中で、直接体験することができます。

開館時間　9：00 ～ 16：30
休館日　月曜日（休日の場合は開館し、翌日休館）
年末年始（2020 年 12 月 26 日～ 2021 年 1 月 1 日）
臨時休館日　2021 年 1 月 5 日・2 月 9 日
入場料　一般 300 (240) 円　高大 150 (120) 円
※中学生以下と 65 歳以上無料。
※障害者手帳をお持ちの方と介護者 1 名無料。
( ) 内は 20 名以上の団体料金

瓦版 大木戸

Kawaraban OKIDO
Vol.65
2020 年（令和 2 年）9 月 30 日

編集・発行
千葉県立房総のむら指定管理者
公益財団法人千葉県教育振興財団房総のむら
〒 270-1506　千葉県印旛郡栄町龍角寺 1028
TEL.0476-95-3333
http://www2.chiba-muse.or.jp/MURA/


令和二年度屋外展示

# 「千葉のまつり」

会場：上総・下総・安房の各農家ほか
会期：令和2年10月3日（土）～令和2年11月23日（月・祝）

十月三日（土）から十一月二十三日（月・祝）までの会期で開催する屋外展示「千葉のまつり」について紹介します。

今年度は、風土記の丘資料館の改修工事により屋内展示施設が使用できないため、屋外展示という名称で、房総のむらの館内にある上総・下総・安房の三農家を主会場として開催します。

新型コロナウイルス感染症の影響で予定していた実演が難しいため、まつりの神事や芸能の装束や用具を展示し、映像によってその全体像を紹介することとしました。

本展の構成は、次のとおりです。

**第一章　上総のまつり「市原の柳楯神事」**

市原市市原・八幡地区に伝わる「市原の柳楯神事」（県指定無形民俗文化財）は、旧暦八月十五日に行われる飯香岡八幡宮の秋季大祭の中心的な神事です。市原地区にある司家と呼ばれる特定の二軒が、年番で神事に奉仕します。「柳楯」は、タチヤナギというヤナギ科の樹木の枝二十五本を真竹と藁縄で楯状に調製します。写真にあるように、この柳楯が同地区の古社を遥拝し、古道を通って、祭礼の行われる八幡地区まで巡行します。飯香岡八幡宮の大祭は、この柳楯を迎えて行われます。

本章では、この柳楯と司家の巡行時の装束などを展示し、神事とまつりの様子を映像で紹介します。

「市原の柳楯神事」巡行風景（個人蔵）

**第二章　下総のまつり「山倉の鮭祭り」**

香取市山倉地区に伝わる「山倉の鮭祭り」（県指定無形民俗文化財）は、十二月第一日曜日に行われる山倉大神の例祭です。神饌として鮭が奉献され、重要な役割を果たす点が特徴的なまつりです。社伝には、悪病が大流行した折、僧が栗山川を遡上した鮭を捧げ、祈祷したところ病魔が退散したとあります。

「山倉の鮭祭り」包丁式の神事（個人蔵）

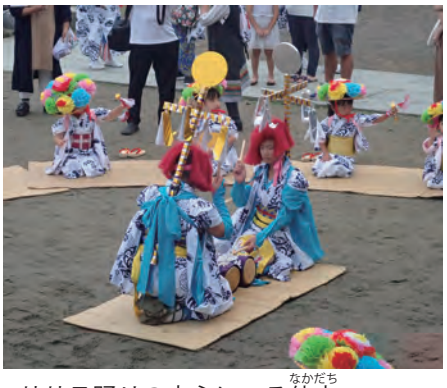
宵祭の「包丁式」で、塩漬けの鮭が切り分けられ、翌日の本祭である初卯大祭に参拝者に護符として頒布されます。

初卯大祭では、行列を組み「御鮭」を捧げながら社殿へ昇り、式典を行います。

本章では、鮭（剥製）や祭礼で使用される本膳・御神鏡・御神酒鈴などを展示し、神事とまつりの様子を映像で紹介します。

**第三章　安房のまつり「白間津のオオマチ」**

南房総市千倉町白間津に伝わるこの大祭（国指定重要無形民俗文化財）は、千年以上続き、地元では「オオマチ」と呼ばれています。氏神である日枝神社の神に五穀豊穣を願うまつりとして四年に一度、七月下旬に三日間かけて行われます。



ササラ踊りの中心にいる仲立
（南房総市教育委員会蔵）

まつりは、神社の鳳輦によるお浜出神事と、大きな幟を競って引くオオナワタシと呼ぶ行事、それにササラ踊りを中心とする

民俗芸能の三つの要素からなっています。まつりの中心的な存在となる仲立（なかだち）と呼ばれる少年二人は、長期にわたる厳格な物忌みを経て神役となります。また、地区のそれぞれの年齢集団が、トヒイライ・エンヤボウ・ササラ・酒樽萬燈（さかだるまんどう）などの芸能関連の役割を担うなど集落全体を挙げてのまつりとなっています。

本章では、まつりの祭場を一部再現し、仲立や芸能関連の装束や用具などを展示し、映像でまつりの様子を紹介します。

その他、トピックス展示として二つのまつりを紹介します。

トピックス1　大杉祭

大杉祭は、市川市国分の日枝神社の境内社、大杉神社のまつりです。祭礼は二月十一日に、日枝神社拝殿で船神輿を祀り、神事を行います。本宮である大杉神社（茨城県稲敷市）はアンバ様とも呼ばれ、疫病除けの神としても信仰されています。かつて、この船神輿を担いで、ムラの各家々を回り、悪霊や疫病などを集めて川に流すという行事があったそうです。

トピックス2　オダチ

オダチとは、木製の大太刀のことです。印旛郡栄町では、五穀豊穣や厄払いを祈願する行事として行われていましたが、現在、この行事を継続しているのは安食の木塚地区だけです。同地区では、石尊様の夏祭りとして七月二十七日（現在は前後の休日）に、五メートル超のオダチと三メートルほどのオダチを若い衆や子どもたちが担いで地域を回ります。かつてこの行事を行っていた安食の他の地区や酒直地区では、主に子どもの行事で、オダチに縄を巻き、持ち手をつけて地面に打ちつけたといいます。ここでは、酒直南部地区のオダチを展示します。

（広報・普及グループ　地引）

## 上総の農家「蚊帳（かや）」

夏の夜、蚊に刺されることを避け涼しく安眠するための夜具であり、「かちょう」とも呼ばれていました。

その起源は古代まで遡り、古代エジプトではクレオパトラが愛用していたとされています。日本には中国から伝来し、奈良時代に伝わりました。当時は貴族社会で使用されており庶民に普及するのは江戸時代になってからで、手軽に入るようになりました。

江戸時代には麻が一般的に材料として使用され、越前（現在の福井県）の麻を蚊帳の生産地の近江（現在の滋賀県）の八幡に運び、八幡の蚊帳問屋が全国に売り歩きました。それでも麻の蚊帳は庶民にとって高価なものであったため、木綿や紙の蚊帳も使用されていました。また、地方では自分で麻を績み糸に紡いで蚊帳を作ったり、材料に樹皮や草皮繊維などを使ったものも多かったようです。この作業は村々では大仕事であったため、「蚊帳祭」をしてその蚊帳をつり、その中で酒盛りをしました。また、妊娠中の人に入ってもらうと縁起が良いとされていました。

一方で、

「蚊帳は七日盆に洗う」

「葬式の時に三方吊にするので普段はしてはならない」

「吊り始める日としまう日は吉日を選ぶ」

「五月に蚊帳を吊り始めると幽霊が出る」

「九月になったら蚊帳を吊るな」

「雷のとき蚊帳に入ると良い」

といった蚊帳にまつわる禁忌は多くみられます。

その後、昭和四十年代に入ると、下水道整備等などの環境整備の発達による蚊そのものの減少とアルミサッシの網戸が普及したことにより、蚊帳の需要は減少していきました。

房総のむらでは、毎年夏休みに上総・下総の農家で実施されている親子夏休み宿泊体験で実際に蚊帳を使用しています。今年度は新型コロナウイルスの影響でこの宿泊体験は中止となりましたが、八月一日から八月十日までの間、蚊帳の展示を行いました。

上総の農家での展示

（農家グループ　鈴木）

## 風土記の丘資料館「大規模改修工事への準備完了！」

資料館は、岩屋古墳・浅間山古墳を代表とする約百二十基の古墳から構成される龍角寺古墳群、南関東最古の寺院の一つである龍角寺が所在し、印旛沼を望む雄大な景観を有する栄町と成田市にまたがる広大な地域に、「千葉県立房総風土記の丘」として昭和五十一（一九七六）年六月に五番目の県立博物館として開館しました。

常設展示のうち、第一展示室はこの地域の古代文化の特徴とされる古墳文化と仏教文化を主テーマとした「房総の古墳と古代の寺」、第二展示室は地域館として、北総地域の原始・古代の通史的展示「原始・古代の生活」、そして第二展示室の導入部として人類活動の時代とされる第四紀に重点を置いた「房総半島の生い立ち」をテーマとした回廊展示の三つのコーナーから構成されていました。

開館から四十数年経ち、展示資料や展示方法は少しずつ変更されてきましたが、三つのテーマは変わること無く現在まで引き継がれています。

今回、建物・施設の老朽化に伴い、大規模改修工事が実施されることとなりました。この工事実施のため館内の資料・什器

類・機器類はほぼすべて外部に持ち出すことなり、昨年度より随時搬出準備を進め、八月末には数々の貴重な資料が展示された展示室、八千箱を超える埋蔵文化財資料が収納された収蔵庫、沢山の書籍等に囲まれた研究室など全ての部屋は空っぽの状態となりました。

この空っぽの状態は、建設時以来のことと思います。一抹の寂しさを感じましたが、改修工事が終わり新しくなった展示室で、新たなテーマによる展示に更新される楽しみもあります。

改修工事は九月から始まり、開館は令和四年春を予定しております。それまでご迷惑をおかけしますが、楽しみにお待ちください。

（風土記グループ　野口）

子どもの人気者ナウマンゾウの搬出

## 商家
## 「夏休み親子小さな和ろうそく作り教室」

八月二十二日（土）・二十三日（日）に親子小さな和ろうそく作り教室を実施しました。二日間で八組の親子にご参加いただきました。例年は酒・燃料の店で実施していましたが、猛暑と新型コロナウイルス対策に配慮し、総合案内所総屋二階が体験場所となりました。

親子小さな和ろうそく作り教室では、まず昔のあかりの説明を行います。舞錐（まいぎり）や火打石と火打金を使って火花を出し、それを火口（ほくち）に落として火を着ける方法などを実演しました。また、行灯（あんどん）や燭台（しょくだい）などの説明も行いました。行灯は油を、燭台はろうそくを光源とする灯火具です。

私たちが通常使用しているろうそくは、パラフィン（石油）から作られています。一方、和ろうそくはウルシ科の落葉小高木であるハゼノキの実から抽出した「木ろう」を使って作られています。イグサ科の多年草である灯心草（とうしんそう）を引き裂いて中から髄（ずい）を取り出し、これを筒状にした和紙に巻き付けて灯心にします。この灯心に手で木ろうを何度も塗り付けて和ろうそくを作っていきます。

和ろうそくと灯芯

和ろうそくを作るための木ろうの温度は約四十五度に準備されています。子供たちは最初にこの木ろうに手を入れると思いがけない熱さに驚きます。熱さに慣れてくると、次は木ろうを何度も塗り付けるという根気のいる作業が二十分ほど続きます。今回参加された子供たちは、この作業に飽きることなく何度も木ろうを塗り付けて、ろうそくを徐々に太くしていきました。

ろうそくが太くなって終わりではありません。火を灯す部分の芯出しという一番難しい作業が最後に待っています。みんな慎重に包丁をあてて芯を出していき、立派な和ろうそくを完成させました。

（商家グループ　宮内）

## 伝統芸能入門
## 「邦楽囃子入門」

八月二日（日）に伝統芸能入門を実施しました。六月に本年度第一回目の伝統芸能入門が予定しておりましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期、八月の今回が本年度初めての伝統芸能入門となりました。

今回は邦楽囃子方で結成された団体「若獅子会」より、藤舎呂凰（とうしゃろおう）氏、鳳聲晴久（ほうせいはるひさ）氏を講師としてお招きし、「邦楽囃子入門」として解説を交えて邦楽囃子の実演を行っていただきました。

従来は実演を聞いたあとに、参加者に楽器を体験してもらうという流れで講師の方にお願いしていたところですが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実演を中心とした演目に変更しました。また、定員を六十名から十五名に縮小、消毒・換気、客席の間隔を空けるといった感染拡大防止対策を徹底した上での実施となりました。

内容としては、大太鼓を使って歌舞伎や能における雨・雷・雪などの効果音を実演したのち、鼓や笛を演奏していただきました。また、楽器の調（しらべ）（チューニング）や調子の取り方、能での掛け声、囃子で用いられる附（つ）け（譜面）といった本格的な解説も行っていただき、邦楽囃子に触れる貴重な時間となりました。

午前・午後ともにあっという間に満員となり、計三十名の参加者が興味深げに講師の演奏や解説に聞き入っていました。

延期となった第一回目の伝統芸能入門の実施日は未定ですが、一月は第三回目の伝統芸能入門を実施する予定です。内容は八月とはまた異なりますが、機会がありましたらご参加ください。

（広報・普及グループ　長谷川）

邦楽囃子の演奏

「伝統芸能入門」
令和三年一月十七日（日）
十一時～十二時／十三時三十分～十四時三十分
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となる場合があります。

## 合同企画展示『「オリンピック・パラリンピック」と千葉のスポーツ史』の実施

令和二年七月二十二日（水）～九月二十二日（火・祝）までの二か月間、房総のむら商家町並みの小間物の店を会場に実施しました。

一階には、人目を引くようパラリンピック競技用の車いすを置き、あわせて今では見かけることがなくなったマッチラベルを額装して紹介しました。小さな画面が重要な広告媒体だったことから、工夫を凝らした様々な図像が描かれています。描かれたオリンピックのロゴから時代の雰囲気を感じることができます。

二階には、青木半治が東京オリンピックの際着用した赤いブレザーを展示しました。青木は、一九六四年東京オリンピック組織委員、第九代JOC委員長、ミュンヘンオリンピック選手団団長などを務めた、いすみ市出身のオリンピアンです。

今回の展示中最も古い資料は、坪井玄道関連の資料です。坪井玄道は今の市川市の出身です。明治政府が明治十一（一八七八）年に体育教員の養成のために、開設した体操伝習所の通訳となりました。このとき坪井は、アメリカから教員として招かれたリーランドの通訳を務めリーランドが職を辞した後、体操伝習所の日本人ではじめての教員となり日本の体育教育の先達となりました。ここでは、坪井の考案した木亜鈴（もくあれい）の実物を配置しました。

千葉県出身者で最初に金メダルを手にしたのは、昭和二十七（一九五二）年のヘルシンキオリンピック、レスリング男子フリースタイルバンタム級の石井庄八です。ヘルシンキオリンピックは、戦後日本がはじめて出場したオリンピックで、この大会で日本人が獲得した唯一の金メダルでもあります。また、日本人のレスリング金メダル第一号でもあり、今回はこの時の模様を報道した新聞原紙を展示しました。実は、この新聞原紙は千葉県立中央博物館の腊葉（さくよう）標本に使われ偶然残ったものです。

このほか、絵葉書や札幌オリンピック関係資料など、合わせて五十七点を展示しました。

（商家グループ　髙橋）

一階展示状況

## ご来館の際の注意事項

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、マスクの着用、手指の消毒、検温、入館確認票の記入にご協力いただいております。また、定員などを縮小して体験を実施しており、早めに受付が終了する場合がございます。なお、混雑が予想される場合は、入場者の分散化や入場制限を行うことがございますので、あらかじめご了承ください。

## 令和２年度 下半期のイベント

●むらの秋
10月3日（土）・4日（日）
●屋外展示「千葉のまつり」
10月3日（土）～11月23日（月・祝）
●歴史の里の音楽会
10月17日（土）
●房総座「柳家三之助落語会」
10月25日（日）
●ユニセフ・ラブウォーク in 房総のむら
11月23日（月・祝）
●むらのお正月
令和3年1月2日（土）・3日（日）
●伝統芸能入門
令和3年1月17日（日）
●ビックりひなまつり
令和3年2月13日（土）～3月7日（日）
●房総座「柳家三三落語会」
令和3年2月28日（日）
●さくらまつり
令和3年3月27日（土）・28日（日）
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予告なく中止・変更する場合がございます。

## ◇編集後記◇

日が落ちる時間も随分と早くなり、秋の匂いや心地よい風が感じられるようになりました。

今年度は新型コロナウイルスの影響で、多くのイベントが中止となりましたが、十月三日（土）から、屋外展示「千葉のまつり」を開催します。安心してご見学いただけるよう、引き続き感染予防対策を行って参ります。皆様のご来館をお待ちしております。

（広報・普及グループ　髙橋）